

【がんばる市内企業の事業活動や事業展開を紹介します】

株式会社 濱 屋

～愛媛天然活魚の百貨店～



◇所在地 大洲市長浜
◇電話 52-0147

がんばる大洲企業

弊社は明治頃の創業で、平成元年に法人化しました。この地は市場も近く、海に近いという好立地条件のため、海水を循環させて活魚を生かし、それを販売しています。

販売経路は市内をはじめ、インターネットで販路を拡大しています。以前は活魚を弊社所有の運搬車で運んでいましたが、経営合理化に伴い配達を業者に任せ、販売のみに特化しました。その結果、現在では売り上げの約8割がインターネットでの販売となっています。



弊社では、基本的に長浜産の活魚を取り扱っていて、常時30種類以上の活魚を揃えています。水揚げがあつてから宣伝する方がロスがなく効率が良いですが、お客様のニーズに合わせるため種類を多く取り揃えるようにしています。

経営上、衛生面では特に気を遣っています。調理用具を清潔に保つことが経営の第一歩だと考えています。長浜の魚は全国的にも評価が高く、テレビ番組に食材として提供したこともあります。これからも味に自信を持ち、多くの人に長浜の魚のおいしさや魅力を伝えられるように頑張ります。

文化財



刀 銘「隆国文政三年二月日」 1口
大洲市指定有形文化財（工芸品）
大洲市立博物館蔵

この刀は、代々大洲藩のお抱え刀匠であった岡本家6代岡本隆国が、文政3年(1820)2月に製作した大小の刀のうち刃長70cm、反り2.1cmの太刀です。

隆国は、安永3年(1774)に岡本豊国の嫡男として生まれ、寛政5年(1793)より大坂の刀匠尾崎助隆、寛政10年には鹿児島島の刀匠伯耆守正良に師事して腕を磨きました。また、文化7年(1810)に家督を相続した後も江戸の刀匠水心子正秀に師事し、さらなる鍛刀技術の習得に勉めました。

大洲藩の中でも優れた刀匠の一人に数えられる隆国の作品は、豪壮優美なものも多く、中には県の文化財に指定されているものもあります。この作品は、地鉄の精美、美しい丁字乱れの刃文のほか、反り、姿、身巾が備前刀の風格を感じさせる良刀となっています。（昭和40年1月1日指定）

野 鳥



ヒメアマツバメ
(姫雨燕)
アマツバメ目アマツバメ科
大きさ13cm

鎌型の翼で上空を高速で飛び、昆虫などを捕らえるツバメ程の大きさの小鳥です。他のアマツバメやツバメに混じって現れることが多く、気をつけていないと分かりません。

空中で生活しているため、姿をじっくりと見る機会はほとんどありませんが、たまにコンクリート製の橋げたの下などで、子育てしている姿に出会うことがあります。初めて国内で観察されたのが1960年代といえますから、比較的新しく珍しい野鳥といえます。市内でも時折現れる程度ですが、冬期に見かけることがあり、どこかで越冬しているようです。最近は野鳥を観察する人たちも増えて、多方面から情報が集まってきます。記録を残すことで環境問題を考える一助になればと思っています。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤

大洲の食育

「大洲市食育推進会議」が、食育月間である6月28日（木）、大洲市総合福祉センターで開催されました。

小島副市長が、今年度より就任される14人の食育推進会議委員へ委嘱状および辞令を交付した後、会長・副会長が選出されました。



議事では、平成23年度に大洲市全体として取り組んだ事業と、食育関連機関（社会福祉課・農林水産課・産業振興課・学校教育課・各小中学校）でそれぞれ実施した事業についての報告、平成24年度の実施計画をパワーポイントなどにより説明しました。



食育事業報告の一例より

この会議は、平成19年に設置され、それ以降、毎年開催されています。平成21年2月には大洲市食育推進計画を策定し、この計画の評価指数を実現するために、委員の助言をいただきながら、大洲市民全体への食育を推進しています。

この会議の中で、今年度も「大洲市食育講演会」を10月19日（金）午後7時より、大洲市総合福祉センターで開催することを決定しました。みなさん、ぜひご来場ください。

とっておきの撮影スポット探しています

「この季節に」「この場所から」「この角度で」など、あなただけのとっておきの撮影スポットを教えてください。

みなさんからご紹介いただいた写真・場所は、市のホームページなどで定期的に紹介します。

【情報の提供方法】

様式などは特になしありません。
住所・氏名・電話番号・題名・コメント・撮影場所を記載してください。

郵送・FAX・メール・持参
いずれも可

【問い合わせ先】

商工観光課観光係

☎24 21111（内線532）

FAX 24 0080

メール

syoukoukankouka@city.ozu.

chime.jp

【観光係職員のお勧めショット】

「五郎畑の前橋下ひまわり」
脇川に架かる鉄橋の赤と、ひまわりの黄、空の青とのコントラストが美しい。8月に見頃となる。



【臥龍山荘】

門をくぐってすぐ目に付くのが、石積みの中から生えているチシャノキ。もともとここに生えていたのを、そのまま石積みにはめ込んだ。





6月17日(日)

どろんこでもへっちら！ ～第18回どろんこミニバレー大会～

長浜の柴地区で、田んぼをコートにしたミニバレー大会が開催され、熱戦が繰り広げられました。

小学生の部は、今年閉校になった柴小学校と対岸にある白滝小学校の児童が対戦しました。一般の部には22チームが参加しました。全身泥まみれになりながらの好プレー？珍プレー？の連続に、観客から大きな歓声が上がっていました。



6月9日(土)・10日(日)

ほたるの光に癒しを求めて ～第40回柳沢ほたるまつり～

柳沢ほたるまつりが、今年も旧柳沢小学校で盛大に開催されました。

天候にも恵まれたこの日、グラウンドいっぱいにバザーテントが立ち並び、藤縄神楽の奉納やお菓子まき・魚釣りなどの催しが行われました。

辺りが暗くなるとほたるの光が見え始め、その数は徐々に増えていきました。幻想的なほたるの光に誘われ、たくさんの人が柳沢を訪れました。



6月23日(土)

炭焼き体験の準備が進んでいます ～龍馬の炭窯完成～

北平地区のみなさんが作製していた龍馬の炭窯が完成しました。

作製に携わった地区のみなさんは、早速、炭窯に火入れをし、出来具合を確認していました。

この炭窯は、9月23日の「わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」のイベントで使用されるものです。

イベント当日、完成した炭窯は白い煙を立ち昇らせて、訪れた人たちを歓迎します。



6月10日(日)

きれいな花の祭典 ～櫛生しょうぶ祭り～

初夏の陽気を感じさせる青空の下、櫛生菖蒲園で櫛生しょうぶ祭りが開催されました。

今年は花が大きく育ち、来場者からも「大きい」という声がしばしば聞かれました。朝から大勢の家族連れでにぎわった会場では、バザーなどが催され、最後には餅まきも行われました。

櫛生しょうぶ祭りは、たくさんの地元住民の協力を得て、毎年開催しています。



災害に強い地域を目指して ～大和地区自主防災組織一斉防災訓練～

自主防災の向上を図ることを目的に、大和地区で一斉防災訓練が行われました。

当日は、一斉避難訓練から始まり、地震体験車訓練、降雨・自然災害（3D映像）体験訓練などが行われ、さまざまな災害への対応を学びました。

483人が参加した今回の訓練では、地域住民による炊き出しが行われるなど、地域一体となって取り組みました。



負けられん戦いがここにある ～どろんこサッカー～

小雨の降る中、三善小学校付近の田んぼで、どろんこサッカーが行われました。

水着に着替えた児童たちは、ぬかるんだ田んぼの中に入り、元気にプレーをしていました。どろんこになりながらも、必死にボールを追う子どもたちの姿に、周りからは歓声と笑い声が巻き起こっていました。

この取り組みは、三善地区の子どもたちの心と体を育てる健全育成を目的に行っています。



いい汗かきました ～肱川バレーボール大会～

肱川町内の各会場で肱川バレーボール大会が行われ、男子12チーム、女子7チームが優勝を争いました。

早朝の雨により、各会場は蒸し暑い状況でしたが、どの試合も白熱したおもしろい試合となりました。

日頃のウップンを晴らすかのような見事なスパイクが決まると会場は大いに盛り上がり、選手や会場のみなさん全員がいい汗を流しました。



親子でアイデア溢れるオンリー・ワンの七夕飾り作り ～親子あそび～

肱川町内の1歳半から3歳児のいる親子を対象とした「親子あそび」が、肱川保健センター2階の保健指導室で行われました。

当日は親子5組、計12人が参加し、子育て支援センターの保育士と一緒に、七夕飾りの作成や読み聞かせなどを行いました。

協力しあって楽しみながら行われた「親子あそび」に、会場は笑顔で包まれていました。

春の叙勲

瑞宝単光章を受章



ひだ かずお さん
 檜田 和雄 (新谷)
 元県警部

檜田さんは、長年にわたり警察活動にご尽力されたご功績により、このたび、瑞宝単光章を受章されました。

愛媛たいき農業協同組合

交通安全横断旗寄贈

小学生の登下校などにおける交通安全のための「交通安全横断旗」の目録が、6月6日(水)、愛媛たいき農業協同組合の田渕常務から叶本教育長に贈呈されました。JA共済の交通事故対策事業は、昭和48年から交通事故の防止・軽減のための交通安全対策などを目的とする地域還元事業として実施されているものです。



この日は、田渕常務をはじめ5人の職員が教育長室を訪問しました。

叶本教育長は謝辞を述べるとともに、「子どもの安全確保が叫ばれている昨今、大変ありがたい。横断旗を十分活用し、さらなる交通安全指導に取り組みたい」と話しました。

交通安全横断旗は、JA愛媛たいき管内各支所より、希望する小学校へ直接届けられました。